

東京慈恵会医科大学の認知度および働く人の疲労とストレスに関するアンケート調査結果報告

1. 目的

本調査は、①東京慈恵会医科大学が一般にどの程度認知されているのかを明らかにすることと、②働く人の疲労とストレスに関する認識を把握することを目的としている。

なお、数年後に同様の調査を実施し、私立大学研究ブランディング事業の推進により①大学のブランド認知度が向上したか、②働く人の疲労とストレスに対するレジリエンスに対する認識が深まったかについての効果測定を行う。

2. 調査期間

平成 30 年 4 月 27 日(金)～平成 30 年 5 月 2 日(水)

3. 調査対象

東京都、神奈川県、埼玉県、及び千葉県に在住する有職者の 20-60 代男女 1,000 人 ※本学関係者を除く

4. 調査方法

楽天リサーチ株式会社 アンケートモニターの調査対象者に対しウェブ調査を実施。

5. 回収状況

回収数:1,000 票

6. アンケート結果について(サマリー)

(1) 東京慈恵会医科大学の認知度について

大学名を「聞いたことがある」と回答した人の割合は 59.6%であり、東京都近郊に所在し医学部を有する国公立大学 22 大学中 7 番目に多く、一定の認知を得ていることがわかった。一方、「詳しいことは知らないが名前は知っている」が 49.4%を占め、詳細には認知されていない結果であった。本学について知っていることは「開業医や産業医などを多く輩出した(11.6%)」が最も多かった。建学の精神については「見たことも聞いたこともない」が 77.4%を占め、ほとんど認知されていないことがわかった。

(2) 働く人の疲労とストレスについて

回答者の 76.1%が疲労やストレスを感じていることがわかった。疲労およびストレス解消法としては「睡眠をとる(63.5%)」が最も多く、「トリのムネ肉等の抗疲労食品を摂取する(3.4%)」が最も少なかった。疲労やストレス自体については約 4 割が知っているが、疲労の発生や回復のメカニズム、ストレスに対する抵抗力の強化方法について「知っている」と回答した割合は 1 割程度であった。

7. 別添資料

・東京慈恵会医科大学の認知度および働く人の疲労とストレスに関するアンケート調査結果